

第四十節の秘められた歴史——第二十七号

エゼキエル第八章

Jeff Pippenger

2026-08-17

エゼキエル書には日付への言及が「十三」箇所ある。六つはエルサレムに関するものであり、六つはエジプトに関するものであり、一つはティルスに関するものである。これらの言及はすべて、数字「十三」が象徴する反逆という文脈の中に置かれている。エゼキエルの妻が途中で死に、第三次包囲の始まりを示したその翌年、エゼキエルはエジプトに敵して語るよう命じられ、それが四十年間荒廃することを示した。

わたしはエジプトの地を、荒れ果てた国々のただ中であって荒廃させ、その町々を、廃墟となった町々の中であって四十年の間荒れ果てさせる。わたしはエジプト人を諸国の民の間に散らし、もろもろの国々の中に追い散らす。しかし主なる神はこう言われる。四十年の終わりに、わたしは、彼らが散らされていたその民の中から、エジプト人を集める。わたしはエジプトの捕囚を帰らせ、彼らをパテロスの地、その居住の地に帰らせる。彼らはそこで、卑しい王国となる。エゼキエル 29:12-14.

包囲は紀元前588年に始まり、その一年後の紀元前587年にエゼキエルは語るよう命じられた。第十七節においては、紀元前571年が、なされた奉仕の報酬としてエジプトがバビロンに与えられる時であることを示している。聖書年代学者たちは、これらの節に示された四十年間を紀元前567年から紀元前527年までと見ており、また、紀元前587年に宣告された最初のさばきの *संदेश* から、第十七節において主がエジプトをネブカドネザルの手に渡されたと宣言された紀元前571年に至るまで、私たちは「十七年」の期間を見いだす。

ネブカドネザルの軍勢は、ティルスに対して長く困難な遠征を戦った（その包囲は約13年、すなわちおよそ紀元前586年から573年まで続いた）。兵士たちはきわめて激しく労した（すべての頭は禿げ、すべての肩は荷を運ぶために擦りむけて裸になった）にもかかわらず、ティルスそのものからは目立った報酬も分捕り物も得なかった。この不利益な労苦のゆえに、神は、ネブカドネザルの軍勢がティルスに対して行った働きの代償（「報酬」）として、エジプトを彼に与えることを定められた。

そして、その家にとどまり、彼らが出す物を飲み食いしなさい。働く者がその報酬を受けるのは当然である。家から家へと渡り歩いてはならない。ルカ 10:7.

それゆえ、ネブカドネザルはまずティルスを取り、十三年にわたる包囲の後、彼にエジプトが与えられた。彼はティルスを取る前に、紀元前586年にエルサレムを取り、次いでティルスに対して十三年の包囲を成し遂げ、その後エジプトに及んだ。エルサレムは紀元前586年に取られ、ティルスの包囲は紀元前586年に始まり、紀元前573年にまで及んだ。十三という数はアメリカ合衆国と結び付けられている。

ホワイ特姉妹は、エゼキエル書におけるエルサレムがラオディキア的なセブンスデー・アドベンチスト教会を表し、また北の王ネブカドネザルが終末における教皇権を表すことを、私たちに示している。第二十九章の歴史的例証において、教皇制ローマを表す「あ

なたの民のうちの終わりの日の強盗たち」は、この章の中で三つの存在を征服する。まずエルサレムを取り、次にツロ、最後にエジプトを取る。

裁きは神の家から始まり、合衆国におけるプロテスタンティズムの角は、日曜法に先立ってまず最初に征服される。合衆国における背教したプロテスタンティズムの角には、ラオデキヤのセブンスデー・アドベンチスト教会が含まれており、それは、西暦34年の古代イスラエルや1844年のプロテスタント諸教会と同様に、見過ごされる「以前の」契約の民を表している。西暦34年および1844年における、神のそれら以前の契約の民が見過ごされることは、いずれもダニエル8:14の二千三百年の預言の預言的歴史の中に表されている。裁きは神の家から始まり、プロテスタンティズムの角は、共和主義の角に先立って裁かれる。

というのは、さばきが神の家から始まるべき時が来ているからである。もしそれがまず私たちから始まるなら、神の福音に従わない者たちの終局はいかなるものとなるであらうか。I ペテロ 4:17

エジプトに対する裁きへの最初の言及は第二十九章第一節に見いだされ、またエゼキエルによってエジプトに関連して言及される最後の日付は、同章第十七節にある。この章は、現代のローマがまずプロテスタンティズムの角を打ち破り、次いで、まもなく到来する日曜休業令において打ち破られる共和主義の角を表すティルスを打ち破ることを示している。ティルス（アメリカ合衆国）が日曜休業令においてネブカドネザルによって征服されるとき、エジプトもまた彼の手に渡される。その時点で、教皇制の致命的な傷は癒やされる。教皇制の致命的な傷がその時に癒やされるだけでなく、エゼキエルは、これが後の雨の期間中に起こることを私たちに告げている。

その日、わたしはイスラエルの家の角を芽生えさせ、あなたには彼らのただ中で口を開くことを許す。こうして彼らは、わたしが主であることを知るようになる。エゼキエル 29:21.

ヤコブとイスラエル

イザヤは、イスラエルが芽を出し、花を咲かせ、全地を実で満たすことを示している。芽を出すこと、花を咲かせること、そして実を結ぶことという三つの段階をもたらすのは雨であり、イザヤによれば、「荒々しい風」が静められるとき、後の雨が到来する。さらに彼は、芽を出し、花を咲かせ、実を結ぶその期間に、ヤコブの罪が取り除かれるべきであることを示しており、「取り除かれる」と訳されているヘブライ語は、「贖われる」を意味する。

あなたはこれを放つとき、量りつつこれと争われる。東風の日、主はその荒い風をとどめられる。それゆえ、これによってヤコブの咎は贖われる。これこそ、その罪を取り除くことのすべての実である。すなわち、彼が祭壇のすべての石を砕かれた白亜の石のようにし、アシェラ像と日の柱とを立たせないときである。イザヤ書 27:8, 9

争いの四方の風（彼の激しい風）が抑えられるとき、十四万四千人の印する働きが始まり、アドベンチズムにおける賢い者と悪しき者とはついに分離される。そして、このすべては「東風の日」に成し遂げられる。印する時は、9/11におけるひとしずくの注ぎをもつ

て始まり、日曜法の時に全面的な注ぎをもって終わる。そのとき地は実をもって満たされる。印する時は、マラキ書第三章と一致する、漸進的な清めと粛清の時である。しかし、エゼキエル二十九章の始まりと終わりの日付によって表される十七年間において、聖書預言の第六の王国の征服、すなわち、プロテスタンティズムの角の象徴であるエルサレム——教会——、また共和主義の角の象徴であるツロ——国家——の征服がなされる。ツロに対する十三年の包囲の終結の直後、エジプトによって表される十人の王から成る第七の王国の征服が起こる。エルサレム、ツロ、エジプトの三つの征服は、「イスラエルの家の角」が芽を吹き、口を開くことを与えられる時に起こる。

祭司エゼキエルと祭司ザカリヤの両者の啞状態は、アメリカ合衆国とバラムのろばとが共に語る時、すなわち日曜法において終わる。主は、日曜法において、イスラエルの家に「口の開き」を与えられる。その時、ヤコブの罪は清め去られ、その名はイスラエルの家へと変えられる。彼らが宣べ伝えるメッセージは、ダニエルによって表される預言的啞状態の第三の証人によって象徴されており、その時彼にはダニエル書第十一章のメッセージが与えられるが、それはまた、その時「語って偽らない」ハバククの幻でもある。エゼキエル、ザカリヤ、そしてダニエルは、第三天使の大いなる叫びの宣布と一致しており、同様にエレミヤも第十五章において、もし彼が最初の失望から立ち返るなら神の口となると約束されている。

なぜ私の痛みは絶えず、私の傷は癒やされることを拒んで、治りがたいのでしょうか。あなたはまことに、私にとって偽る者のように、あてにならぬ水のようになるのでしょうか。それゆえ、主はこう言われる。もしあなたが立ち返るなら、わたしはあなたを再び連れ戻し、あなたはわたしの前に立つようになる。もしあなたが卑しいものの中から尊いものを取り出すなら、あなたはわたしの口のようになる。彼らをあなたのもとに帰らせよ。しかし、あなたが彼らのもとに帰ってはならない。エレミヤ 15:18, 19

イエスは終わりを初めによって例示され、そして9/11において、その降り注ぎは芽を生じさせ、ヤコブの植物は成長し始めた。そして究極的には、ヤコブの不義が取り除かれるとき、イスラエルの家は語るであろう。雨によって成し遂げられた9/11におけるその芽生えは、封印の時の終わりにおける芽生えを予表しており、そのときイスラエルの家の「角」は芽を出す。まさにその場所で、背教したプロテスタント主義と共和主義の角がネブカドネザルによって打ち破られるのである。

その時点において、プロテスタンティズムの偽りの角と、イスラエルの諸部族の他の杖とは区別されて芽を出したアロンの杖によって予表された、プロテスタンティズムの真の角との相違が対比される。エゼキエル書第二十九章における二つの日付は、間近に迫った日曜休業令に際して十四万四千人の旗が掲げられる歴史を示している。

芽を出し、花を咲かせ、実をもって地を満たす過程は、9/11に後の雨が振り注がれた時に始まった。ちょうど、ペンテコステの季節が、キリストがご自分の弟子たちに数滴を吹きかけられたことによって始まり、それが完全な注ぎの行われたペンテコステへと導いたのと同様である。封印の時として予表された、ヤコブ（篡奪者）の清めの始まりにおける9/11の発芽は、日曜法におけるイスラエルの家（勝利を得る者）の発芽を予表していた。終わりににおけるこの発芽は、かつての契約の民と十四万四千人との間に区別を設ける

しるしであり、それはちょうど、カルメル山における火の注ぎが預言者エリヤとバアルの預言者たちとの間に区別を設けたのと同じである。その区別は、一方では偽りの平和と安全のメッセージのゆえに預言的に恥を受ける一群によって示され、他方では預言的に喜びに満ちた一群によって示されるのであり、彼らは決して恥を見ることがない。

エジプトの六つの年代

エゼキエルはエジプトに関してさらに四つの時を特定しており、そのうち二つは捕囚の第十一年を示し、残る二つは捕囚の第十二年を示している。

第十一年の包囲攻撃

第十一年の第一の月の七日に、主のことばが私に臨んで言った。「人の子よ、わたしはエジプトの王ファラオの腕を折った。見よ、それは包んでいやされることもなく、添え木を当てて縛られ、剣を握る力を得るように強くされることもない。」エゼキエル 30:20, 21.

第十一年の第三の月、その月の一日に、主の言葉が私に臨んで言われた、「人の子よ、エジプトの王ファラオとその群衆に告げよ。あなたはその大いなる威厳において、だれに似ているのか。」エゼキエル 31:1, 2

捕囚の第十一年に、第三十章において、エジプトとファラオの腕は折られ、バビロンの腕は強められる。第三十一章の第十一年には、エジプトの陥落と、それが世界に及ぼす影響が示される。

第十二年とエルサレムの陥落

第十二年における二つの日付は、エゼキエル書第三十二章に記されている。

第十二年の第十二の月、その月の一日に、主の言葉が私に臨んで言われた、「人の子よ、エジプトの王ファラオのために哀歌を唱えて、彼に言え。あなたは諸国の若い獅子のようであり、海の大いなる獣のようである。あなたは自分の川々に出て来て、その足で水をかき乱し、その川々を濁らせた。それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしは多くの民の群れをもって、あなたの上にわたしの網を張り、彼らはわたしの網によってあなたを引き上げる。」エゼキエル書 32:1-3

また第十二年のその月の十五日に、主の言葉が私に臨んで言われた、「人の子よ、エジプトの群衆のために嘆き、その者ら、すなわち彼女と名高い諸国の娘たちを、穴に下る者たちとともに、地の深みへ投げ下せ。」エゼキエル 32:17, 18.

ファラオとその群衆

第三十一章のエジプトに対する宣告において、最後の数節は次のように述べている。

わたしは、彼が倒れる響きによって諸国の民を震えさせた。わたしが彼を、穴に下る者たちとともに陰府へ投げ落としたとき、エデンのすべての木、レバノンのえり抜きの最良のもの、水を飲むすべてのものは、地の下の深みにおいて慰めを受ける。彼らもまた彼とともに陰府へ、剣に殺された者たちのもとへ下って行った。彼の腕であり

、諸国の民のただ中でその陰の下に住んでいた者たちも同様である。エデンの木々の中で、栄光と偉大さにおいて、おまえはだれにこのように似ているのか。しかしおまえも、エデンの木々とともに地の下の深みにまで引き下ろされ、無割礼の者たちのただ中に、剣に殺された者たちとともに横たわらようになる。これがファラオとそのすべての群衆である、と主なる神は言われる。エゼキエル 31:16-18。

第三十二章のエジプトに対する宣告において、終わりの数節は第三十一章を反復し、これを敷衍しており、また並行する結語を含んでいる。

わたしは生ける者の地にわたしの恐怖をもたらしたからである。彼は、剣で殺された者たちとともに、無割礼の者たちの中に伏すことになる。すなわち、ファラオとそのすべての群衆である、と主なる神は言われる。エゼキエル書 32:32。

第二十九章の十七年

第二十九章に示された十七年間の期間に位置づけられている諸年代は、ネブカドネザルがエジプトを征服すること、またエジプトの四十年間の荒廃期間を示している。四十は荒野を表し、それは地が荒廃する千年を予表している。

わたしが地を見たところ、見よ、それは形なく、むなしかった。天を見たが、そこには光がなかった。わたしが山々を見ると、見よ、それらは震え、すべての丘は揺れ動いた。わたしが見ると、見よ、人はひとりもおらず、空のすべての鳥は逃げ去っていた。わたしが見ると、見よ、実り豊かな地は荒野となり、そのすべての町々は主の御前に、その激しい怒りによって打ち壊されていた。まことに主はこう言われる。「全地は荒れ果てる。しかし、わたしはこれを全く滅ぼし尽くすことはしない。」エレミヤ 4:23-27。

エゼキエル二十九章におけるエジプトの荒廃の四十年の終わりに、悪しき者たちの最後の復活と、彼らの最終的な滅びとが示されている。

恐怖と、落とし穴と、罠とが、おまえの上に臨む、地の住民よ。恐怖の響きから逃れる者は落とし穴に陥り、落とし穴のただ中から這い上がる者は罠に捕らえられる。高き所の窓が開かれ、地の基は揺り動かされるからである。地はことごとく砕かれ、地は全く裂け、地は激しく揺り動かされる。地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動く。その背きはその上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がることはない。その日、主は高き所にある高き者の軍勢と、地の上にいる地の王たちとを罰せられる。彼らは囚人が穴に集められるように集められ、牢に閉じ込められ、多くの日の後に罰せられる。イザヤ24:17-22。

エジプトに関わる六つの日付によって一つにまとめられているエゼキエルのメッセージは、地上の竜の勢力の究極的滅亡を明らかにしているものであり、それは間もなく到来する日曜法令において始まり、千年期の終わりににおける邪悪なエジプト人たちの最終的滅びに至るまで続くのである。

預言的証言において、獣と偽預言者は火の池において終焉に至るが、これはキリストの再臨を表している。しかし、竜の勢力が火の池によって滅ぼされるのは千年期の終わりである。

すると、その獣は捕えられ、また彼の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちとその像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、彼とともに捕えられた。この両者は、生きたまま硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。残りの者たちは、馬に乗っておられる方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥は彼らの肉で飽きた。黙示録 19:20, 21.

獣と偽預言者は、預言的にはキリストの第二回目の再臨において終焉を迎えるが、竜がその運命に直面するのは、キリストの第三回目の再臨において、その千年後である。

また私は、一人の御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖とを手にとって、天から下って来るのを見た。彼は、あの竜、すなわち、あの古い蛇、悪魔でありサタンであるものを捕らえて、千年の間縛り、これを底知れぬ所に投げ込み、そこを閉ざしてその上に封印を施した。それは、千年が満ちる時までにはや諸国の民を惑わすことがないためである。その後、彼はしばらくの間解き放たれなければならない。黙示録 20:1-3

第十一年および第十二年

エゼキエル書第二十九章の二つの日付に示された「十七年」の期間は、捕囚の第十年に始まり、第二十七年に終わった。第三十章および第三十一章のメッセージは第十一年に示され、第三十二章に示された二つの日付は捕囚の第十二年に与えられた。第十年、すなわちおよそエルサレム包囲の初めに始まったこの十七年の期間に続いて、第三十章および第三十一章に記された第十一年の二つのエジプトに関するメッセージが示された。これら第十一年の二つのメッセージを合わせると、日曜法の直前における一つのメッセージを表している。第十二年の他の二つのエジプトに関するメッセージは、紀元前586/585年のエルサレム滅亡の時、あるいはその直後に生じた。

キリストの来臨のメッセージは、日曜法において大いなる叫びのメッセージへと変化する真夜中の叫びのメッセージの一部として宣べ伝えられる。日曜法の前にエジプトについての二つのメッセージが宣べ伝えられ、また日曜法の時、あるいはその直後にも、エジプトについての二つのメッセージが宣べ伝えられる。同じ年に、すなわちエルサレムの滅亡に至る包囲の期間中に与えられるそれらのメッセージの重複と、さらに日曜法におけるもう二つのメッセージとは、第二天使のメッセージを予表している。そこには常に重複があるのである。

第二のメッセージの後には、必ず第三のメッセージが続く。

「筆と声とをもって、私たちはその宣言を響かせ、その順序、そして私たちを第三天使の使命へと導く預言の適用を示さなければならない。第一と第二なくして第三はあり得ない。これらの使命を、私たちは出版物と講話によって世に伝え、預言の歴史の流れの中に、これまであった事柄と、これからある事柄とを示さなければならない。」『セレクトッド・メッセージズ』第2巻、104、105。

第三の使命の時に、恩恵期間の戸は閉ざされる。合衆国に対しては日曜律法の時に恩恵期間が閉ざされ、世界に対してはミカエルが立ち上がる時に恩恵期間が閉ざされる。これら二つの閉ざされた戸はいずれも第三の使命を表しており、その第三の使命は常に、常に二重の使命である第二の使命に先立たれている。

第二天使に力が与えられるのは、それが真夜中の叫びのメッセージと結び合わされる時である。エゼキエル書第三十章および第三十一章におけるエジプトに対する宣告によって表されているように、人類に向けて宣べられた二つのメッセージは、真夜中の叫びのメッセージがいつ第二天使に加わるのかを示しており、そして第三十二章の二つのメッセージは、大いなる叫びにおける第三天使への力の付与を示している。

人間の諸出来事の複雑な相互作用としてのエゼキエルの車輪は、人類への最後の警告、すなわち第三天使の警告を示しており、この第三天使は第一および第二天使の警告によって構成されている。日曜法以前の真夜中の叫びと、日曜法以後の大いなる叫びとは、エゼキエルの四つの日付によって表されており、それらは、第29章のアルファとオメガの日付の「十七」年間のうちに位置し、同章11節から16節に示されているダニエル11章40節の隠された歴史と一致している。

ダニエル書第十章において、ダニエルはエゼキエルと同様に、口のきけない者とされた。ダニエルの沈黙は三度の接触のただ中でもたらされたのであり、第一と第三の接触は御使いガブリエルによるものであり、中間の接触はキリストの接触であった。ダニエルは、カイサリア・ピリピと十字架との間にいるペテロと同様に、中間にいる。中間においてペテロは栄光を受けたキリストを見たが、それはダニエルもまた第十章で見たとおりである。三人の御使いの中間にあるものは第二のメッセージであり、それは二つのメッセージの結合である。

第四の月の第五日、そして1844年

エゼキエル書第一章一節および二節において、エゼキエルは第四の月の第五日におり、これは1844年における第七の月の運動の中間に符合する。エゼキエルは1844年4月19日と10月22日の中間におり、それはまた、1844年の真夜中の叫びの使者サミュエル・スノーが、ボストンにおいてこの使命について最初の明確な見解を提示した時と同様であった。すなわち、それは1844年4月19日から93日後であり、1844年10月22日に戸が閉ざされる93日前であった。サミュエル・スノーは1844年7月21日にボストンにおり、第七の月の運動の中間にあつて、自らが預言的に、変貌の山におけるペテロ、十七番目のヨベル周期の第三十年にあるエゼキエル、そして第十章の鏡を見る幻の間におけるダニエルの第二の接触と共に立っていることを知らなかった。2026年は、2028年に終結する第七十番目のヨベル周期の第四十七年を表す。

ティルス

エルサレムに関するエゼキエルの六つの言及の年代の検討に戻る前に、まずテュロに対して宣告された一つの年代を確認しておくべきである。

そして第十一年の第一の月の一日に、主の言葉が私に臨んで言われた。人の子よ、ツロがエルサレムについて、「ああ、人々の門であったものは砕かれた。彼女は私のほうに向けられた。今や彼女は荒れ果てたので、私は満たされる」と言ったゆえに、それゆえ、主なる神はこう言われる。見よ、ツロよ、わたしはあなたに敵対し、海がその波を湧き上がらせるように、多くの国々をあなたに向かって攻め上らせる。彼らはツロの城壁を打ち壊し、その塔を倒す。わたしはまた、その塵を彼女の上からかき取

り去り、彼女を裸の岩の頂のようにする。彼女は海のただ中で網を広げる場所となる。わたしがこれを語ったからである、と主なる神は言われる。彼女は諸国民の略奪物となる。その野にいる娘たちは剣で殺される。そのとき、彼らはわたしが主であることを知る。まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは北から、バビロンの王ネブカドレザルを、王の王として、馬と戦車と騎兵、軍勢、および多くの民を伴って、ツロに攻め来させる。

彼は野にいるあなたの娘たちを剣で殺し、あなたに向かって砦を築き、壘を設け、盾をあなたに向かって掲げる。彼はあなたの城壁に攻城兵器を据え、その斧をもってあなたの塔を打ち倒す。彼の馬の多さのゆえに、その塵はあなたをおおい、騎兵と車輪と戦車の響きによって、彼が破れ口の造られた町に入る者のようにあなたの門に入るとき、あなたの城壁は震える。彼はその馬のひづめをもってあなたのすべての街路を踏みにじり、あなたの民を剣で殺し、あなたの強固な守備隊は地に倒れる。彼らはあなたの富を略奪し、あなたの商品を獲物とし、あなたの城壁を打ち壊し、あなたの麗しい家々を滅ぼす。そしてあなたの石も、あなたの木材も、あなたの塵も、水の中に投げ込む。わたしはあなたの歌の音をやませ、あなたの琴の響きはもはや聞かれない。わたしはあなたを岩の頂のようにし、あなたは網を広げる場所となり、再び建てられることはない。主なるわたしがこれを語ったからである、と主なる神は言われる。

主なる神はツロにこう言われる。あなたの倒れる音に、島々は震えないであろうか。あなたのただ中で殺戮が行われ、傷ついた者が叫ぶときに、すると海のすべての君たちはその王座から下り、その上衣を脱ぎ、刺繍の衣を取り去る。彼らは震えを身にまとい、地に座し、絶えずおののき、あなたのゆえに驚き惑う。彼らはあなたのために哀歌を唱え、あなたに向かって言うであろう。海を行き交う者たちの住む、名高い町よ、海にあって強く、その町とその住民は、そこに住むすべての者に恐れを与えていたのに、あなたはどのようにして滅ぼされたのか。今や、あなたの倒れる日に島々は震え、まことに海にある島々は、あなたの去ることによっておののく。まことに主なる神はこう言われる。わたしがあなたを、住む者のない町々のように荒れ果てた町とし、淵をあなたの上に湧き上がらせ、大水をもってあなたを覆うとき、また、わたしがあなたを穴に下る者たちとともに、昔の民のもとに下らせ、地の低いところ、昔からの荒れ果てた場所に、穴に下る者たちとともに住まわせ、あなたがもはや住まわれることのないようにし、しかもわたしが生ける者の地に栄光を置くとき、わたしはあなたを恐るべきものとし、あなたはもはやなくなる。たとい尋ね求められても、あなたは再び見いだされることはない、と主なる神は言われる。エゼキエル 26:1-21。

ツロについてのメッセージは、エルサレムが滅ぼされた年に宣べ告げられたものであり、それは、まもなく到来する日曜法の時に、聖書預言における第六の王国が打ち倒されることを表している。日曜法の時、合衆国（ツロ）は、預言的に、エルサレムを打ち倒したゆえに喜ぶ。シスター・ホワイトはこのエルサレムをラオデキヤのセブンスデー・アドベンチスト教会として特定し、エゼキエルはこれを「もろもろの民の門」と呼んでいる。ツロは、エルサレムが過去形において「もろもろの民の門」で「あった」と述べている。「門」は、預言的には教会である。

彼は恐れて言った。「この場所はなんと畏るべきところであろう。ここはほかならぬ神の家、ここは天の門である。」ヤコブは朝早く起き、自分が枕としていた石を取って

それを柱として立て、その頂に油を注いだ。そしてその場所の名をベテルと呼んだ。しかし、その町の名はもともとルズであった。創世記 28:17-19。

「ベテル」という語は「神の家」を意味し、ツロは、ラオディキア的なセブンスデー・アドベンチスト教会に太陽礼拝の強制を受け入れさせたことを喜んでいる。しかし、太陽礼拝を強制する者たちの誤った歓喜にもかかわらず、神はエゼキエルを通して次のように語っておられる。「見よ、わたしはおまえに敵する、ツロよ。わたしは多くの国々をおまえに向かって上って来させる。海がその波を押し寄せさせるように。彼らはツロの城壁を滅ぼし、その塔を打ち倒すであろう。」

「テュロスの城壁」は、テュロスの保護を表している。「城壁」は十戒の象徴である。

「ここで預言者は、真理と義からの全般的な離反の時代にあって、神の王国の基礎である諸原則を回復しようと努める民を描写している。彼らは、神の律法に生じた破れを修復する者たちである。すなわちそれは、神がその選ばれた者たちを守るためにその周囲に置かれた城壁であり、また正義と真理と純潔に関するその戒めに従うことこそ、彼らの絶えざる守りであるべきものである。」『国と指導者』677頁。

神の律法は防護の壁である。しかし、複数形の「壁」は、合衆国の共和主義の角を象徴するテュロスの繁栄と成功を「守り」、それを生み出した二つの原則を表している。

「『また、それには小羊のような二つの角があった。』小羊のような角は、若さ、純真、そして柔和を示しており、1798年に『上って来る』ものとして預言者に示されたときのアメリカ合衆国の性格を、まことにふさわしく表している。最初にアメリカへ逃れ、王権の圧政と聖職者の不寛容からの避難所を求めたキリスト教徒の亡命者たちの中には、市民的および宗教的自由という広い基礎の上に政府を樹立しようと決意した者が多くいた。彼らの見解は独立宣言のうちに位置を占めており、そこには『すべての人は平等に造られている』こと、また『生命、自由、および幸福の追求』に対する奪うことのできない権利を与えられているという偉大な真理が明示されている。そして憲法は、人民に自治の権利を保障し、国民の投票によって選ばれた代表者たちが法律を制定し施行することを定めている。また、宗教的信仰の自由も与えられ、各人が自己の良心の命ずるところに従って神を礼拝することが許された。共和主義とプロテスタント主義は、この国の基本原理となった。これらの原理こそ、その力と繁栄の秘訣である。キリスト教世界の至る所で、虐げられ踏みにじられた人々は、この地に関心と希望をもって目を向けてきた。幾百万もの人々がその海岸を目指し、アメリカ合衆国は地上の最も強力な諸国家の一つとしての地位へと台頭した。…」

その象徴の子羊のような角と竜の声とは、このように表されている国民の表明と実践との間にある顕著な矛盾を示している。国民の「語る」こととは、その立法機関および司法機関の行為を意味する。そのような行為によって、この国民は、自らの政策の基礎として掲げてきた自由主義的かつ平和的な諸原則を偽りとするであろう。それが「竜のように」語り、「第一の獣のすべての権力を行使する」との予言は、竜および豹のような獣によって表される諸国民に現れた不寛容と迫害の精神が発展することを、明白に予告している。また、二本の角を持つ獣が「地とその上に住む者たちに第一の獣を拝ませる」との記述は、この国民の権威が、教皇制に対する敬意の行為となる何らかの遵守を強制することにおいて行使されるべきことを示している。

「そのような行為は、この政府の諸原則、その自由な制度の精神、独立宣言の直接的かつ厳粛な表明、そして合衆国憲法に、真っ向から反するものであろう。国家の建設者たちは、教会が世俗権力を行使することを、その必然的結果——不寛容と迫害——を伴うものとして、これを防ぐよう賢明に努めた。憲法は、『議会は、宗教の樹立に関して、またはその自由な実践を禁止することに関して、いかなる法律も制定してはならない』と規定し、また『合衆国の下におけるいかなる官職または公的信託の資格としても、宗教上の審査が要求されることは決してない』と定めている。国家の自由を守るこれらの保障を甚だしく踏みじることによってのみ、いかなる宗教的遵守も、民政権力によって強制され得るのである。しかし、そのような行為の不整合は、象徴に示されているものに劣らず大きい。それは、小羊のような角を持つ獣——表向きには純潔で、柔和で、無害であるが——が、竜のように語るのである。」『各時代の大争闘』441、442頁。

アメリカ合衆国の基礎は、独立宣言と合衆国憲法によって表されており、これらはそれぞれプロテスタント主義と共和主義を表している。保護と繁栄の「城壁」は共和主義とプロテスタント主義であり、日曜法の時に、独立宣言と合衆国憲法の双方の原則は覆される。なぜなら、ネブカドネザルは「おまえの城壁に向かって攻城兵器を据え、その斧をもっておまえの塔を打ちこわす」からである。

日曜法の時、すべての「塔」は打ち壊される。塔とは、自己を救おうとする人間の努力によってその根本思想が表されている教会の象徴である。大いなる反逆者ニムロデとその塔について、『国と指導者』には次のように記されている。「その塔が部分的に完成したとき、その一部は建設者たちの住居として用いられた。ほかの部屋は華麗に調度され、飾り立てられて、彼らの偶像のためにささげられた。民はその成功を喜び、銀と金の神々をほめたたえ、天と地の支配者に逆らって立ち上がった。」日曜法の時、テュロスはエルサレムが打ち倒されたことを喜ぶが、国家的背教のあとには国家的破滅が続き、その時、北の王は合衆国の城壁と塔を打ち倒すのである。

次の記事において、エゼキエル書におけるエルサレムの六つの日付を取り上げ始めることにする。